

複合動詞「- 疲れる」の V1 + V2 結合について

杉村 泰
名古屋大学

【要旨】

本稿はコーパス調査とアンケート調査により、日本語の複合動詞「- 疲れる」の V1 + V2 結合について分析したものである。その結果、V1 には非能格動詞の「歩く」_レ、「遊ぶ」や他動詞の「飲む」_レ、「読む」などが来やすく、同じ非能格動詞や他動詞でも「行く」_レ、「来る」や「切る」_レ、「燃やす」などは来にくいこと、さらに上級日本語学習者は「叩き疲れる」_レ、「言い疲れる」のような非典型的他動詞を「- 疲れる」の V1 として許容する傾向があることを明らかにした。

1 はじめに

日本語の複合動詞 (V1 + V2) における前項動詞 (V1) と後項動詞 (V2) の結合可能性については、従来「他動性調和の原則」(影山 1993) や「主語一致の原則」(松本 1998) が指摘されている。しかし、影山 (1993) 自身も認めているとおり、「- 込む」(押し込む、駆け込む、はまり込む) や「- 去る」(葬り去る、走り去る、過ぎ去る) のように「他動性調和の原則」に適合しないものもある。

複合動詞の V1 と V2 の結合を見る場合、実際には多数の動詞の組み合わせを見る必要がある。しかし、従来の研究では研究者の頭に浮かんだ限られた用例をもとに議論が進められることが多かった。これに対し、筆者はインターネットの WWW ページをコーパスとして大量のデータを扱うことにより、実証的に V1 と V2 の結合規則を導き出す研究を行っている。本稿はその一環として、複合動詞「- 疲れる」の前項動詞の特徴について考察したものである。

2 先行研究

影山 (1993) は日本語の動詞を他動詞、非能格自動詞、非対格自動詞の 3 つに分類し、次のように複合動詞の V1 と V2 の結合には「他動性調和の原則」が働いていると主張している。(例外のあることも認めている。)

- (75)a. 他動詞： (x <y>)
- b. 非能格自動詞： (x < >)
- c. 非対格自動詞： <y>

V-V 型の複合動詞においては、この項構造が決定的な意義を持っている。(中略) 他動詞(75a)と非能格自動詞(75b)の項構造は同じタイプと見なすことができるから、他動詞 + 他動詞、非能格自動詞 + 非能格自動詞だけでなく、他動詞と非能格自動詞が混在した複合動詞も可能である。他方、非対格自動詞の項構造(75c)はこれら二者とは形式が異なるから、基本的に非対格自動詞は非対格自動詞としか結合しない。これを他動性調和の原則と呼んでおこう。

(影山 1993:117)

これに対し、松本（1998）は影山（1993）の非能格自動詞と非対格自動詞の認定方法を検証し直した上で、ほぼ完全に非能格＋非対格、他動詞＋非対格と認定できるものとして(1)、(2)の例が挙げられるとして、これを「他動性調和の原則の真の反例と考えられる（p.50）」と述べている。

(1) 非能格自動詞＋非対格自動詞

歩き疲れる、遊び疲れる、泳ぎ疲れる、立ち疲れる、座り疲れる、しゃべり疲れる、鳴きくたびれる、走りくたびれる、泣きぬれる、泣き沈む

(2) 他動詞＋非対格自動詞

読み疲れる、待ちくたびれる、飲みつづれる、食いつづれる、聞きほれる、見ほれる

（松本 1998:49 の例(15b)、(15c)）

こうして松本（1998）は複合動詞の V1 と V2 の結合可能性について、「他動性調和の原則」より制約の緩い「主語一致の原則」によって説明できるとした。「主語一致の原則」とは、「二つの動詞の主語として実現する項が同一物を指す、というもので、主語になるものであれば外項同士（あるいは内項同士）である必要はない（p.52）」というものである。

ここで複合動詞「-疲れる」について見ると、V2 の「疲れる」は「意図を持たず受動的に事象に係わる対象（Theme）を主語に取る自動詞」であるため、非対格自動詞であると考えられる。一方、「-疲れる」の V1 には例(3)、例(4)のように、基本的に他動詞か非能格自動詞が来る。そして V1 と V2 は同一の主語を取る。従って、松本（1998）の言うとおり、「-疲れる」の V1 と V2 の結合は「他動性調和の原則」ではなく「主語一致の原則」によって説明できることが分かる。

(3) 私は本を読み疲れた。（私は本を読んだ、私は疲れた）

(4) 私は歩き疲れた。（私は歩いた、私は疲れた）

ここで問題となるのは「-疲れる」の V1 と V2 が同一の主語を取る場合であっても、例(5)、例(6)のように非文となるものもあるということである。

(5) *私は家を壊し疲れた。（私は家を壊した、私は疲れた）

(6) *私は学校に行き疲れた。（私は学校に行った、私は疲れた）

これについて、杉村（2007）ではインターネットの WWW ページをコーパスとして使用することにより、実証的に「-疲れる」の V1 に来る動詞の特徴を明らかにした。その概要を以下に示す。

1) コーパス調査の概要

コーパス：インターネットの WWW ページ

検索エンジン：goo のフレーズ検索 (http://www.goo.ne.jp/)

検索日：2007 年 9 月 5 日～2007 年 9 月 22 日

検索方法：前項動詞(V1)は『日本語基本動詞用法辞典』にある 852 語を含む 1,068 語を対象とし、これと漢字表記の「疲れる、疲れた、疲れない、疲れなかった、疲れず、疲れまして、疲れません、疲れて」の共起について検索した。表 1 にはその合計ヒット数を示してある。(連用形の「 - 疲れ」は名詞の「～疲れ」も多数含まれるため検索対象から外した)

2) 検索結果

調査の結果、「 - 疲れる」の V1 には他動詞か非能格自動詞が来やすいことが分かる。このうちヒット数の多いもの上位 60 語を表 1 に示す。

表 1 「 - 疲れる」の V1 に来る動詞上位 60 語 (WWW ページより)

	V1	ヒット数		V1	ヒット数		V1	ヒット数
1	歩く	17,236	21	打つ	273	41	闘う	112
2	遊ぶ	13,859	22	考える	271	42	言う	102
3	泣く	6,637	23	歌う	261	"	迷う	"
4	泳ぐ	4,519	24	攻める	256	44	噛む	87
5	踊る	1,835	25	聞く	234	45	登る	86
6	笑う	1,417	26	並ぶ	227	46	殴る	84
7	待つ	1,085	27	鳴く	225	47	動く	81
8	走る	981	28	萌える	224	48	選ぶ	79
9	飲む	929	29	働く	222	49	食う	77
10	読む	797	30	座る	219	50	叩く	75
11	探す	644	31	怒る	213	51	吠える	72
12	食べる	612	32	叫ぶ	198	52	語る	68
13	悩む	575	33	飛ぶ	185	53	調べる	63
14	戦う	566	34	見る	181	54	吐く	59
15	しゃべる	469	"	立つ	"	55	掘る	56
16	話す	439	36	病む	168	56	休む	55
17	書く	394	37	滑る	144	57	投げる	49
18	騒ぐ	364	38	呑む	125	"	捜す	"
19	倦む	331	39	乗る	115	59	眠る	47
20	寝る	319	40	逃げる	114	60	描く	45

3) 「 - 疲れる」の特徴

「 - 疲れる」の基本的な特徴

- ・「 - 疲れる」は主体がいかにして疲労するのかを表す表現である
- ・V1 は V2 「疲れる」の原因を表す動詞である
- ・「主語一致の原則」に基づく (経済用語の「売り疲れる」などは例外)
- ・「 - 疲れる」と共起しやすい動詞

- ・「読む」、「食べる」のように主体自身の状態変化を表す非典型的他動詞
- ・「歩く」、「遊ぶ」のように主体自身に影響を及ぼす非能格自動詞
- ・非対格自動詞のうち「悩む」、「倦む」のように時間的幅を持った心理動詞(主体自身の感情維持を表す)
- 「 - 疲れる」と共起しにくい動詞
- ・ほとんどの非対格自動詞
- ・「壊す」、「燃やす」のように対象への影響を表す典型的他動詞
- ・「行く」、「来る」のように移動行為そのものを表す非能格自動詞
- ・「泊まる」、「暮らす」のように主体がある場所に定着して存在することを表す非能格自動詞

非対格自動詞が「 - 疲れる」のV1に来る場合(实例は必ずしも多くない)

- ・「咲く」、「輝く」、「光る」などが擬人的に使われ、主語が能動的に事象を成立させることを表す場合(非能格自動詞に近い性質を持つ)
- ・「痛む」や「溺れる」など主語の精神的・肉体的経験(刺激)を表す場合
- ・「驚く」、「びっくりする」などの瞬間的感情が繰り返し生じた場合
- ・「濡れ疲れる」、「成り疲れる」のように疲労の原因をV1の結果状態に求める場合
- 「主語一致の原則」から外れる例
- ・経済用語の「売り疲れる」、「買い疲れる」、「上げ疲れる」、「下げ疲れる」(「人々がある行為をした結果、市場に倦怠感が生じる」という意味を表す。「相場(円、株)が売られ疲れる」と言えば「主語一致の原則」に従うが、それよりもV1に能動的な動詞が来ることの方が優先されている。)

3 文法性判断テストによる意識調査

本稿では杉村(2007)の結果を受け、日本語母語話者および日本語学習者(中国語を母語とする上級日本語学習者)が様々な「～疲れる」について、どれぐらいの許容度で捉えているのかをアンケートによる文法性判断テストによって分析する。その概要は次の通りである。

1) 被験者

日本語母語話者：名古屋大学1年生50人(2008.1.17実施)

日本語学習者：南台科技大学応用日本語系大学院1年生17人(2008.2.25実施)

天津外国語学院日本語学院4年生33人(2008.3.13実施)

2) 調査項目

アンケートは下記のような質問紙を使い、合計72語の「 - 疲れる」について行った。この72語は杉村(2007)の分析結果を踏まえ、「 - 疲れる」と共起しやすいものと共起しにくいものを適宜選んだ。アンケートで「タ形」を用いた理由は、「ル形」よりも「～疲れた」という状況が実感されやすいからである。

質問 次の表現が正しいと思う場合は を、正しくないと思う場合は×を入れて下さい。

() 諦め疲れた () 遊び疲れた () 集め疲れた
 () 歩き疲れた () 言い疲れた () 行き疲れた
 () 痛み疲れた () 居疲れた () 動き疲れた
 : : :

3) 調査結果

「 - 疲れる」の許容度について母語話者の許容度が高い順に表 2 に示す。

表 2 「 - 疲れる」の許容度 (%) (日は母語話者、学は学習者)

	V1	許容度			V1	許容度			V1	許容度	
		日	学			日	学			日	学
1	歩く	100	98	26	逃げる	60	52	51	切る	22	38
2	泳ぐ	100	90	27	嘔む	58	86	52	進む	20	40
3	遊ぶ	100	82	28	語る	58	82	53	迷う	20	40
4	踊る	98	92	29	選ぶ	58	70	54	眠る	16	36
5	歌う	98	88	30	攻める	54	74	55	驚く	14	24
6	話す	96	80	31	投げる	54	74	56	暮らす	12	36
7	叫ぶ	96	76	32	悩む	54	60	57	燃やす	12	32
8	泣く	94	90	33	言う	52	86	58	寝る	8	36
9	走る	94	86	34	並ぶ	52	22	59	困る	8	24
10	探す	94	78	35	叩く	50	100	60	休む	8	22
11	しゃべる	90	92	36	持つ	50	64	61	居る	8	16
12	書く	88	88	37	座る	48	72	62	溺れる	6	22
13	騒ぐ	86	46	38	聞く	46	84	63	帰る	6	22
14	笑う	84	86	39	食べる	46	66	64	住む	6	22
15	働く	82	88	40	飛ぶ	44	78	65	萌える	4	16
16	待つ	82	74	41	作る	44	74	66	倦む	2	44
17	読む	80	90	42	乗る	42	66	67	泊まる	2	18
18	立つ	80	86	43	打つ	38	82	68	来る	0	30
19	登る	78	86	44	押す	38	70	69	咲く	0	22
20	動く	78	68	45	飲む	38	40	70	痛む	0	20
21	怒る	76	32	46	壊す	36	24	71	光る	0	20
22	戦う	74	86	47	集める	34	42	72	諦める	0	14
23	考える	74	82	48	見る	32	62				
24	鳴く	66	54	49	折る	26	44				
25	殴る	64	66	50	行く	24	48				

4 分析

まず、表1に示した WWW 検索によるヒット数上位 20 位までの「- 疲れる」について、母語話者および学習者に対するアンケート結果と比較したものを表3に示す（アンケートは夕形で調査）。これを見ると、ヒット数の多いものは大方許容度も高いことが分かる。ただし、「飲み疲れる」、「食べ疲れる」、「悩み疲れる」はヒット数の割に許容度が低いことに気付く。これはアンケートの被験者が大学生や大学院生であるため、社会人ほど飲んだり食べたり悩んだりして疲れることが少なく、こういう表現に馴染みが薄かったためではないかと考えられる。

また、学習者は「騒ぎ疲れる」、「倦み疲れる」、「寝疲れる」を同じぐらいの許容度で捉えているが、母語話者は「騒ぎ疲れる」の許容度は高く、「倦み疲れる」、「寝疲れる」の許容度は低く捉えている。「騒ぐ」、「倦む」、「寝る」はいずれも人間の行為を表す自動詞であるが、「騒ぐ」は意志動詞、「倦む」と「寝る」は無意志動詞として使われている。このことから、母語話者は「- 疲れる」は意志的な自動詞につくという法則を身につけているが、学習者はそれを身につけていないことが分かる。なお、「倦み疲れる」、「寝疲れる」は WWW 検索からは相当数の実例が出現することから、不自然ではあるものの実際に使われやすい表現であることが分かる。

表3 WWW 検索ヒット数上位 20 位 (%)

	- 疲れる	WWW 検索の ヒット数	許容度	
			日	学
1	歩き疲れる	17,236	100	98
2	遊び疲れる	13,859	100	82
3	泣き疲れる	6,637	94	90
4	泳ぎ疲れる	4,519	100	90
5	踊り疲れる	1,835	98	92
6	笑い疲れる	1,417	84	86
7	待ち疲れる	1,085	82	74
8	走り疲れる	981	94	86
9	飲み疲れる	929	38	40
10	読み疲れる	797	80	90
11	探し疲れる	644	94	78
12	食べ疲れる	612	46	66
13	悩み疲れる	575	54	60
14	戦い疲れる	566	74	86
15	しゃべり疲れる	469	90	92
16	話し疲れる	439	96	80
17	書き疲れる	394	88	88
18	騒ぎ疲れる	364	86	46
19	倦み疲れる	331	2	44
20	寝疲れる	319	8	36

次にアンケートで母語話者の許容度が高かったもの上位 20 位までを表 4 に、学習者の許容度が高かったもの上位 20 位までを表 5 に示す。表 4 と表 5 を比べると、20 語中 14 語（網掛けの語）が共通しており、母語話者も学習者も「歩く」のような非能格自動詞や「読む」のように主体自身の状態変化を表す非典型的他動詞の許容度が高いことが分かる。一方、両者の差が 30 ポイント以上ある語（太字の語）を見ると、先に見た「騒ぎ疲れる」のほか、学習者の許容度の方が高い「叩き疲れる」、「言い疲れる」、「聞き疲れる」がある。このことから、学習者は他動詞の一部で母語話者より許容度が高くなることが分かる。

表 4 母語話者の許容度上位 20 位 (%)

	～疲れた	許容度	
		日	学
1	歩き疲れた	100	98
2	泳ぎ疲れた	100	90
3	遊び疲れた	100	82
4	踊り疲れた	98	92
5	歌い疲れた	98	88
6	話し疲れた	96	80
7	叫び疲れた	96	76
8	泣き疲れた	94	90
9	走り疲れた	94	86
10	探し疲れた	94	78
11	しゃべり疲れた	90	92
12	書き疲れた	88	88
13	騒ぎ疲れた	86	46
14	笑い疲れた	84	86
15	働き疲れた	82	88
16	待ち疲れた	82	74
17	読み疲れた	80	90
18	立ち疲れた	80	86
19	登り疲れた	78	86
20	動き疲れた	78	68

表 5 学習者の許容度上位 20 位 (%)

	～疲れた	許容度	
		日	学
1	叩き疲れた	50	100
2	歩き疲れた	100	98
3	踊り疲れた	98	92
4	しゃべり疲れた	90	92
5	泳ぎ疲れた	100	90
6	泣き疲れた	94	90
7	読み疲れた	80	90
8	歌い疲れた	98	88
9	書き疲れた	88	88
10	働き疲れた	82	88
11	走り疲れた	94	86
12	笑い疲れた	84	86
13	立ち疲れた	80	86
14	登り疲れた	78	86
15	戦い疲れた	74	86
16	噛み疲れた	58	86
17	言い疲れた	52	86
18	聞き疲れた	46	84
19	遊び疲れた	100	82
20	考え疲れた	74	82

ここで「他動詞 + 疲れる」の許容度を表 6 にまとめると、母語話者は「話す」や「書く」のように主体自身の状態変化を表す非典型的他動詞における許容度は高く、「切る」や「燃やす」のように対象への影響を表す典型的他動詞での許容度は低いことが分かる。このうち、「言い疲れる」や「叩き疲れる」のように母語話者の許容度が中程度になるところで、学習者の許容度が母語話者より 30 ポイント以上高くなることが分かる（網掛け部分）。

一方、非能格自動詞のうち母語話者の許容度が低いものをまとめたものを表 7 に示す。これらは杉村（2007）の WWW 検索でもヒット数が少なかった表現である。こ

れに対し、学習者は「歩く」などに比べれば許容度を低く捉えているものの、母語話者ほどには許容度を低く捉えていないことが分かる。

表6 「他動詞+疲れる」の許容度(%) 表7 「非能格自動詞+疲れる」の許容度(%)

V1	許容度	
	日	学
話し疲れた	96	80
書き疲れた	88	88
読み疲れた	80	90
殴り疲れた	64	66
言い疲れた	52	86
叩き疲れた	50	100
聞き疲れた	46	84
食べ疲れた	46	66
作り疲れた	44	74
打ち疲れた	38	82
押し疲れた	38	70
飲み疲れた	38	40
壊し疲れた	36	24
切り疲れた	22	38
燃やし疲れた	12	32

V1	許容度	
	日	学
行き疲れた	24	48
進み疲れた	20	40
暮らし疲れた	12	36
居疲れた	8	16
帰り疲れた	6	22
住み疲れた	6	22
泊まり疲れた	2	18
来疲れた	0	30

5 まとめ

本稿では複合動詞「-疲れる」の V1 + V2 結合について、母語話者と学習者に文法性判断テストを行い、杉村(2007)の WWW 検索の結果と比較しながら考察した。その結果、母語話者と学習者の許容度の違いについて明らかにした。今後はこれについてさらに分析を進めていきたい。

[付記] 本稿は平成 19-21 年度科学研究費助成金(基盤研究(C))(課題番号 19520451)による研究成果の一部である。

参考文献

- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房。
 小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹(1989)『日本語基本動詞用法辞典』,大修館書店。
 杉村 泰(2007)「複合動詞「-疲れる」の前項動詞の特徴について」,『ことばの科学』第 20 号,名古屋大学言語文化研究会, pp.101-115。
 松本 曜(1998)「日本語の語彙的複合動詞における動詞の組み合わせ」,『言語研究』第 114 号,日本言語学会, pp.37-82。